執筆者紹介（執筆順、＊は編者）

＊木村　幹（きむら・かん）　**はしがき、第１章、第６章、あとがき、関係年表**
編著者紹介欄参照。

澤田克己（さわだ・かつみ）　**第２章**
1991年　慶應義塾大学法学部卒業。
現　在　毎日新聞論説委員。
著　作　『「脱日」する韓国』ユビキタスタジオ、2006年。
『韓国「反日」の真相』文春新書、2015年（第27回アジア太平洋賞特別賞）。

金　世徳（キム・セトク）　**第３章**
2005年　神戸大学大学院国際協力研究科国際協力政策専攻博士後期課程修了。博士（政治学）。
現　在　大阪観光大学観光学部教授。
著　作　『韓国現代政治――中央集権から地方分権への道』博英社、2024年。
『韓国の民主市民教育』博英社、2024年。

金　誠（きん・まこと／キム・ソン）　**第３章**
2008年　神戸大学大学院国際協力研究科国際協力政策専攻博士後期課程退学。博士（学術）。
現　在　札幌大学地域共創学群教授。
著　作　『近代日本・朝鮮とスポーツ――支配と抵抗、そして協力へ』塙書房、2017年。
『孫基禎――帝国日本の朝鮮人メダリスト』中公新書、2020年。

米沢竜也（まいさわ・たつや）　**第４章**
2016年　神戸大学大学院国際協力研究科博士後期課程単位取得退学。修士（政治学）。
現　在　神戸大学大学院国際協力研究科助教。
著　作　「韓国の独島関連民間団体に関する考察」『国際協力論集』2023年。
「東学農民戦争をめぐる記憶――朴正熙政権期を中心に」『国際協力論集』2024年。

田中　悟（たなか・さとる）　**第５章**
2008年　神戸大学大学院国際協力研究科国際協力政策専攻博士後期課程修了。博士（政治学）。
現　在　摂南大学国際学部教授。
著　作　『会津という神話――〈二つの戦後〉をめぐる〈死者の政治学〉』ミネルヴァ書房、2010年。
「国立墓地群を通して見る韓国ネイション内部の「亀裂」について」藤田大誠編『国家神道と国体論――宗教とナショナリズムの学際的研究』弘文堂、2019年。

河　昇彬（ハ・スンビン）　**第７章**
2018年　神戸大学大学院法学研究科修了。博士（政治学）。
現　在　近畿大学国際学部特任講師。
著　作　「在日次世代の韓国語教育の必要性に関する研究――関西地域のアンケート調査を基に」『日本研究』2021年。
「韓国における政治的な議論の場の研究――オンラインコミュニティを中心に」『日韓国際学術研究』2025年。

セバスティアン・マスロー（Sebastian MASLOW） **第 8 章**
2025年　東北大学大学院法学研究科法制理論研究専攻博士課程後期満期退学。博士（学術）。
現　在　東京大学社会科学研究所准教授。
著　作　「財政規律と防衛力拡充――安全保障財源の日独比較」横田正顕編『財政規律の比較政治経済学――制度的安定性、柔軟性、包摂性』有斐閣、2026年。
Crisis Narratives, Institutional Change and the Transformation of the Japanese State, Sebastian Maslow & Christian Wirth eds. SUNY Press, 2021.

崔　恩美（チェ・ウンミ） **第 9 章**
2015年　高麗大学校大学院博士課程修了。博士（政治学）。
現　在　峨山政策研究院先任研究委員。
著　作　『世界秩序の転換期における日韓戦略的パートナーシップ』共著、博英社、2025年（韓国語・日本語・英語）。
『韓国人の日本認識（2014～2024）――「世代」と「イデオロギー」を超えられるか』共著、峨山政策研究院、2024年（韓国語）。

野口英佑（のぐち・えいすけ） **第10章**
2023年　神戸大学大学院国際協力研究科国際協力政策専攻博士課程修了。博士（政治学）。
現　在　国立屏東大学人文社会学部応用日本語学科助理教授。
著　作　『台湾における「日本」の過去と現在――糖業移民村を視座として』ゆまに書房、2023年。
「日治時期東台湾私営移民村的発展：以旭村的田村孝一郎為中心的考察」『嘉大応用歴史学報』第9期、国立嘉義大学応用歴史学系、2025年。

《編著者紹介》

木村　幹（きむら・かん）

1966年　大阪府河内市生まれ。
1993年　京都大学大学院法学研究科博士課程中退。博士（法学）（京都大学）。
現　在　神戸大学大学院国際協力研究科教授。
著　作　『朝鮮／韓国ナショナリズムと「小国」意識――朝貢国から国民国家へ』ミネルヴァ書房、2000年。
『韓国における「権威主義的」体制の成立――李承晩政権の崩壊まで』ミネルヴァ書房、2003年。
『高宗・閔妃――然らば致し方なし』ミネルヴァ書房、2007年。
『民主化の韓国政治――朴正熙と野党政治家たち　1961～1979』名古屋大学出版会、2008年。
『日韓歴史認識問題とは何か――歴史教科書・「慰安婦」・ポピュリズム』ミネルヴァ書房、2014年。
The Burden of the Past: Problems of Historical Perception in Japan-Korea Relations, University of Michigan Press, 2019.
『歴史認識はどう語られてきたか』千倉書房、2020年。
『韓国愛憎――激変する隣国と私の30年』中公新書、2022年。
『全斗煥――数字はラッキーセブンだ』ミネルヴァ書房、2024年。
『国立大学教授のお仕事――とある部局長のホンネ』ちくま新書、2025年。